

ぼれぼれ通信



世界最強の部隊は

陸上自衛隊にいた?!

1・2月号
vol.74



陸上自衛隊の部隊が 米海兵隊を度々 打ち負かしていった！！

11月、山本の姿は、富士山麓の陸上自衛隊北富士駐屯地にありました。訪問の目的は、富士トレーニングセンター（FTC・Fuji Training Center）の実態と米海兵隊との摸擬戦の状況を確認するためであつた。北富士駐屯地には部隊訓練評価隊の隊本部と統裁科、評価分析科などがあり、近傍の滝ヶ原駐屯地には評価支援隊（アグレッサー部隊と呼ばれる対抗部隊・敵側）がいる。部隊訓練評価隊の任務は、普通科中隊を基幹とする訓練の統裁及び評価分析を行うことである。役割としては、部隊練成において実戦的訓練の場を構築した訓練の統裁、評価資料の提供による訓練部隊の戦闘評価、教訓の普及、陸自の喫緊の運用ニーズに対応、研究、教育への協力など

がある。部隊訓練評価隊は、機動訓練評価装置、運営の統裁、対抗部隊の三位 一体により、「極めて実戦に近似した環境」を構築し評価分析等を実施し、得られた教訓を普及して部隊の精強化に寄与することである。簡単に言えば、実戦形式の訓練センターであり、そこで得られた教訓を全国の自衛隊に知らしめ、自衛隊の能力を上げるために、各地に所在する各普通科中隊を対象に、北富士演習場において交戦訓練教材（バトラー）を使用して中隊規模の諸職種混成部隊に対する模擬の実戦的訓練環境を提供している。評価支援隊が実際のアグレッサー部隊（対抗部隊・敵側）を演じて摸擬戦を行うのである。

世界最高峰の訓練施設が日本に

特筆すべきは、機動訓練評価装置である。これは、実弾の代わりにレーザー光線・電波を使用し、部隊や人員の被害や損耗を判定・付与し、データ（位置・交戦・損耗・映像）をリアルタイムで収集・伝送することが出来るシステムである。このシステム下における摸擬戦は、直接射撃を再現する機能、砲迫（りゅう弾砲と迫撃砲）の弾着などの間接射撃を再現する機能、地雷等を再現する機能、GPSによる位置標定、光ファイバー通信（位置・交戦・損耗等の伝達）、映像を収集する機能、データを収集・伝送する機能、機動訓練評価装置を活用した審判、リアルタイムな戦闘損

耗付与により実戦的環境を作り、実戦さながらの訓練が可能なのである。

またバトラーと呼ばれるレーザー送受信装置を隊員、車両、フィールド（戦場）内に装着、設置することで有効な射撃を受けると人員や車両に音と光で損耗を現示させ、射撃を受けた際、受光部で被弾を感じし、損耗を付与するのである。個人には、負傷部位・負傷区別・加害火器の判別まで可能となつており損耗を詳しく付与することが出来る。GPSによる個人の正確な位置と弾着点をデジタル地図上に表示し、射撃効果を自動判定も出来る。現地の観測者がらの射撃要求又は砲迫部隊の命令により、射撃（火制）地域が設定され、その火制地域に存在

する部隊等に対して、損耗公算に応じて損耗付与も出来る。破裂型装備装置、地雷・手榴弾等の炸裂を電波により模擬し、損耗を付与するシステムもある。対人・対戦車地雷は、人員・戦

車等が地雷上を通過した際の圧力によ



▲バトラーを装着する山本と判定装置

り、電波を発射し、損耗付与（※対戦車約130kg、対人約4kg）を行うのである。

このFTCでは、全国から陸上自衛隊の部隊が、アグレッサー部隊が、アグレッサー部隊

実は、米国本土にも似たような施設があり、NTC（National Training Center）と呼ばれており、FTCと同様にレーザー交戦装置を用いてアグレッサー部隊（対抗部隊・敵側）と摸擬戦を行っている。ただし、米国のそれは、直線的なレーザーを用いており、日本のように迫撃砲のような曲線を描くようなものは対象となっていない。従つて日本のFTCは世界最高の実戦形式での訓練が出来る施設と言つて間違いない。そこに目をつけたのが、米海兵隊である。

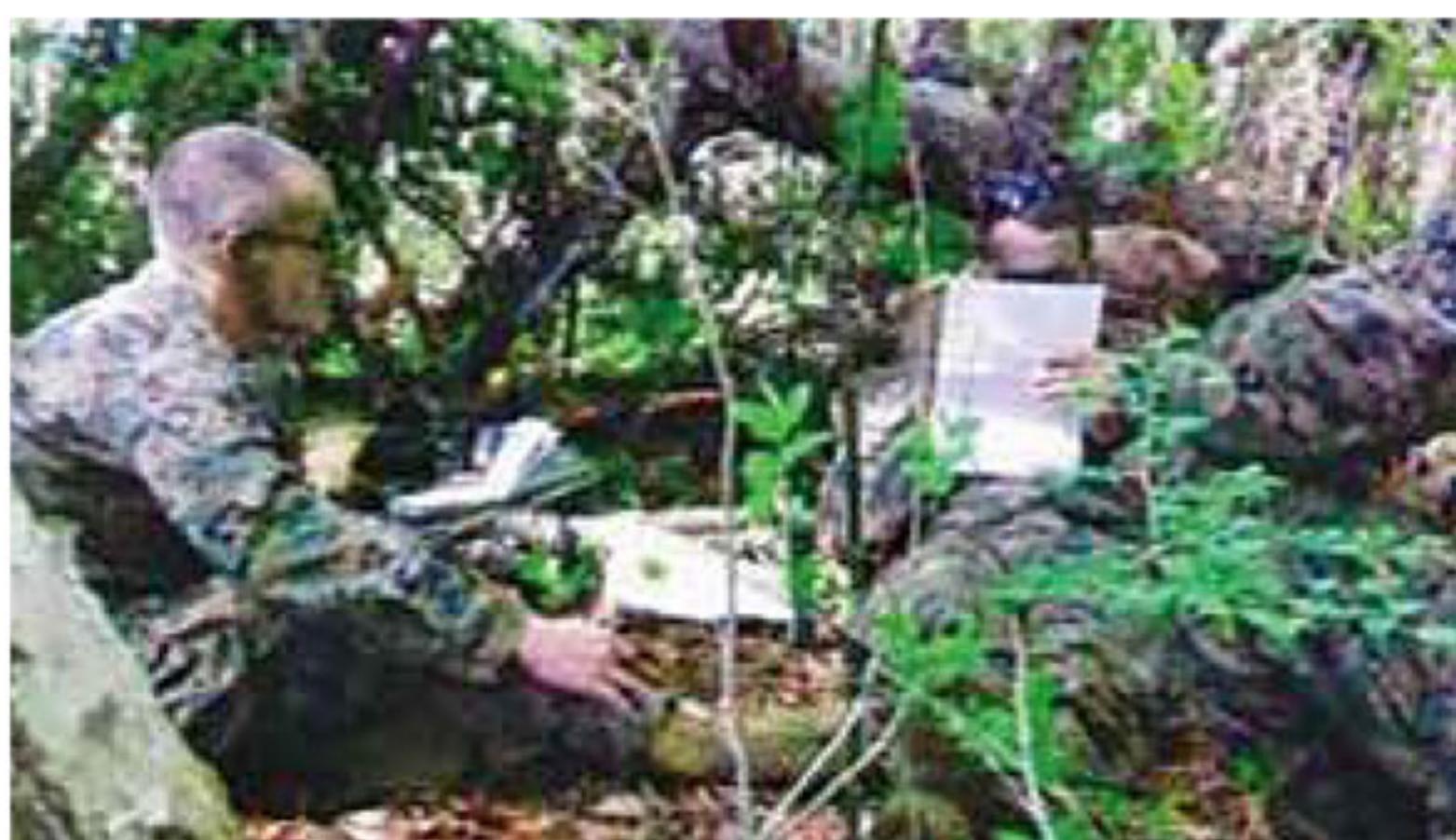
（対抗部隊..敵側）に訓練と半は敗北を期し、そして、そこでの教訓を活かし部隊の能力をグレードアップするのである。

米海兵隊は、現在、EABO（遠征前進基地作戦..Expeditionary Advanced Base Operations）というコンセプ

トで運用されている。これは、敵の接近阻止・領域拒否に対して、その脅威圏内に前進基地を設置し、これを海軍・海兵隊部隊の拠点として制海の支援などにあたるものとされている。例え、離島などに小部隊を上陸させ、陣地を構築し、約2週間程度耐えて、援軍を待つのである。またMLR（海兵沿岸連隊・Marine Littoral Regiment）と言つて2020年代に入つて米海兵隊が、EABOの一環として編成を進めている新しい部隊編制がある。従来の海兵連隊と比較し小規模な部隊となるが、諸兵科連合部隊として、有事には島嶼部に分散配置するとされている。要は、戦車を廃すなど重装備をやめて軽歩兵に編成したのである。2023年、在沖

縄米海兵隊は、沖縄県内に駐留する部隊を改編し、離島防衛に即応するMLRを発足させた。中国を念頭に、相手のミサイルの射程圏内を移動しながら攻撃するEABOを担う中核部隊で要員は約2千人。MLRは2022年にハワイに初めて設けられ、沖縄は2番目で第12海兵連隊を改編した第12海兵沿岸連隊（第12MLR）を発足させた。

このような新たなコンセプトで新たな部隊編成で作戦を遂行しなければならない米海兵隊は、実際、自分たちのコンセプトや部隊編成が、どれぐらい的を射ているのか、どの程度の運用能力があるのか、確認したかったのである。



▲模擬戦闘中にバトラーを脱いで休憩している海兵

FTCの使用（年に最大2回）を日米間で合意したこと踏まえ、同年から米軍単独訓練「シンカ」がFTCにおいて毎年行われている。その訓練を陸上自衛隊が支援をしている。具体的には、米海兵隊が陸自の評価支

援隊（アグレッサー部隊）を相手方とする模擬戦闘訓練を行い、陸自の部隊訓練評価隊が米海兵隊の成績などを評価・分析するのである。

米海兵隊の実力は如何に？

では、実際に陸自のアグレッサー部隊と戦った米海兵隊は、どうなつたのか？初年度の初戦は、米海兵隊は、ほぼ全滅状態で大敗を期したそうだ。陸自の斥候・偵察部隊が大活躍をし、米海兵隊の部隊の配置、指揮官の所在など全容を捉えており、一気に全て叩くことが出来たそうだ。しかし、それで米海兵隊の雰囲気はがらりと変わり、2回戦目は、双方ともに損耗が進み、どちらも目標が達成できな

いと判断され引き分けとなつた。回を進めるごとに米海兵隊も教訓を活かし、引き分けに持つてくるのであるが、その教訓の引継ぎが上手くいっているのか、2年目の初戦は、やはり大敗を期している。3年目の今年は、米海兵隊がいいところまで来たそうであるが、米海兵隊の勝ち！とはならなかつた。その理由が、米海兵隊がズルをしていたことが判明したのである。例えば、模擬戦闘中にもバトラーを装着していないのであれば、正しい判定を下すことが出来ない。

何としても勝ちたい気持ちは分からぬでもないが、不正を行つて勝つたとしてもそれは本当の意味での勝ちにはならぬ。世界最強を自負する米海兵隊を打ち負かしている陸上自衛隊のアグレッサー部隊が世界最強なのではないだろうか。

※文中最後の写真は防衛省提供



駅で「ぽれぽれ通信」をお配りしております 駅頭活動報告

「頑張って!」「これ(ぽれぽれ通信)冷蔵庫に貼ってます」「応援してるよ!」「やっぱりいないとね」「お久しぶりです」などなど本日も沢山のエールを頂きました。有難うございました。

朝の6:30~8:30までの2時間にわたり、4区内の下表の駅で活動をさせていただいております。

※雨の日は鞄と傘をお持ちの皆様が多いので、駅頭活動を控えています。



前回の「ぽれぽれ通信」配布数

9月・10月集計分

駅名	9月	枚数	10月	枚数	前月比
逗子駅	活動も控えました。		25日(水)	129	—
逗子・葉山駅	外出を控えたため駅頭の発令により不要不急の熱中症警戒アラートの		3日(火)	209	—
鎌倉駅(東口)			—	—	—
鎌倉駅(西口)			27日(金)	118	—
大船駅(西口)			11日(水)	253	—
大船駅(モノレール口)			24日(火)	103	—
大船駅(東口)			5日(木)	240	—
大船駅(笠間口)			26日(木)	228	—
本郷台駅			18日(水)	124	—
港南台駅			19日(木)	161	—
	9月配布合計		10月配布合計	1565	—

簡単にアクセスできます!



(旧Twitter)



facebookは本人がやっています

専用のアプリをダウンロードして右のQRコードを読み取りください。(iPhone除く)



HP

山本ともひろプロフィール

経歴

- 関西大学 商学部 卒業
- 京都大学 大学院 修士課程(法学)修了
- (財)松下政経塾 卒塾(21期)
- 米国ジョージタウン大学 客員研究員、その後、会社員を経て
- 平成17年 衆院選 初当選
- 平成26年 文部科学大臣政務官・復興大臣政務官 就任
- 平成27年 オリンピック・パラリンピック大臣政務官 就任
- 平成29年 防衛副大臣・内閣府副大臣 就任
- 平成30年 自民党 国防部会長 就任
- 令和元年 防衛副大臣・内閣府副大臣 就任
- 令和3年 自民党 文部科学部会長 就任

**自由民主党
衆議院議員(5期 15年)**

神奈川4区(栄区・鎌倉市・逗子市・葉山町)
昭和50年(1975年)生まれ
48歳 鎌倉在住



分かりやすく大人気!

国会見学案内実施中!

国会を山本ともひろと一緒に見学してみませんか?



「政治が身近に感じられた」「分かりやすく、楽しかった!」と大人気の見学ツアーは無料で行っています。詳細は下記の事務所まで、お気軽にお電話ください。

ぽれぽれ通信って何?



「ぽれぽれ」は、ケニアの公用語のスワヒリ語で「ゆっくり、ゆっくり」という意。私は、ケニア・タンザニア米国大使館同時爆破テロの現場(ケニア)に居合わせたのがきっかけで政治家を志しました。

一度に全てを変えることは無理でも、諦めず、ゆっくりでも少しずつでも政治を変えていきたい。そうしなければこの国は良くならない…。そしてその活動を皆様にお伝えしていきたいという想いを込めて、この冊子を作っています。



山本ともひろ事務所リスト

本部事務所

神奈川県鎌倉市大船1-22-2 つるやビル 301
TEL:0467-39-6933 FAX:0467-39-6943

国会事務所

東京都千代田区永田町2-1-2 第2議員会館 1110号室
TEL:03-3508-7193 FAX:03-3508-3623

令和6年(2024年)1月1日発行 第74号

※本誌は、隔月(1、3、5、7、9、11月)発行の機関誌です。バックナンバーについては上記事務所までご連絡ください。またHPにも掲載しておりますのでご覧ください。